



- I. 研修科の長 富士 幸 蔵
- II. 臨床研修責任者 富士 幸 蔵
- III. 臨床研修指導医数（厚生労働省認定） 3名

IV. 認定医数・専門医数・指導医数

日本泌尿器科学会専門医	5名
日本泌尿器科学会指導医	3名
日本排尿機能学会専門医	1名
がん治療認定医	1名
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術認定医	1名

V. 主な診療実績

腎（尿管）悪性腫瘍手術	41件
（うち腹腔鏡下手術 33件）	
膀胱悪性腫瘍手術	155件
前立腺悪性腫瘍手術	5件
精巣悪性腫瘍手術	6件
経尿道的尿路結石手術	38件
経尿道的前立腺肥大症手術	24件
経尿道的尿管ステント留置/抜去術	105件
経会陰的前立腺針生検	187件

VI. 診療科の特徴

当科は、泌尿器科疾患全般に対応しています。腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、男性生殖器癌などの悪性腫瘍に対しては外科的治療のみならず、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬も含めた化学療法や放射線療法などと組み合わせた集学的治療に取り組んでいます。尿路結石や下部尿路障害に対しても経尿道的手術を中心とした外科的治療を積極的に行っています。また、女性骨盤底センターと連携して女性尿失禁や骨盤臓器脱の手術研修も行っています。当科では開腹手術、腹腔鏡手術、経尿道的手術、女性骨盤底手術などの外科的治療と、抗がん化学療法などの内科的治療をバランス良く研修することが可能です。

VII. 研修目標（学修目標）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。



もくじ. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力（学修到達目標）

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。泌尿器科特有の症候、疾患を理解し、適切な検査を選択する。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会



もくじ に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

10. 当科特有の目標

泌尿器科領域の代表的な疾患の病態を把握し、実際に診療に携わることにより、泌尿器・男性生殖器疾患の診療において必須の知識と技術を修得する。

- ① 泌尿器・男性生殖器疾患についての診断から治療の一連の流れを経験する。
- ② 泌尿器・男性生殖器疾患の診療に必要な基本的手技を学習する。
 - ・ 基礎的検査・処置手技（膀胱留置カテーテル留置、膀胱鏡検査、前立腺生検、尿路造影、ウロダイナミックス等）の必要性を理解して安全に実施できる。
 - ・ 指導医のもとで泌尿器科の基本的な手術手技（尿管ステント留置、膀胱瘻・腎瘻造設、経尿道的手術、開腹手術、腹腔鏡手術など）ができる。
- ③ 病歴や身体所見をもとに診断へのアプローチのための知識や技術を修得する。
- ④ 胸部 X 線・CT の読影方法を身につける。
- ⑤ 排尿機能検査や内視鏡検査などを通じ排尿機能についての知識を学ぶ。
- ⑥ 患者や家族に対する病状説明に同席し、患者や家族の立場を理解できるようにする。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。



もくじ. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

VIII. 研修方略

1. 当科で経験できる症候、疾病、病態、その他

別表 研修分野別マトリックス表を参照のこと。

2. 基本的診療業務

① 外来診療

一日あたりの患者数は約 70 名。午前中は、初診 1 名、再診 1 名。午後は再診 1 名の医師が診療にあたっています。膀胱内視鏡検査や超音波検査は随時行っています。

指導医のもと各種泌尿器科処置や検査を研修できます。

② 入院診療

常時 20 名程の入院患者を診療しています。原則として外来の主治医がそのまま主治医となりますが、全員が担当医となりチーム医療を行っています。前立腺生検は毎週 4~6 例。月曜日から金曜日まで毎日が手術日になっています。また、水曜日には助成骨盤底センターで手術手技研修が可能です。泌尿器科疾患全般に対する知識と外科的・内科的治療法を経験することができます。

③ 週間予定

時	月	火	水	木	金
8	病棟回診	病棟カンファレンス	病棟回診	病棟回診	病棟回診
9	病棟 外来 手術	手術 病棟	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16	多職種連携 カンファレンス	手術カンファレンス			
17		医局会			

- ・ 毎日 8 時からの病棟回診に参加して入院患者の状態を把握する。
- ・ 病棟カンファレンスに参加し患者状況を報告して治療方針の確認を行う。
- ・ 手術カンファレンスに参加し手術適応や術式について確認する。
- ・ 火曜日 17 時からの医局会で行われる症例検討、研究発表、抄読会等に参加する。
- ・ 月曜日 17 時（月 1 回）からの病理カンファレンスに参加する。
- ・ 月 2 回の昭和大学横浜市北部病院モーニングセミナーに参加する。

3. その他

- ① 外来での研修（一般外来および当直）を通じて、泌尿器科領域の必要な知識と治療法を経験する。
- ② 入院診療（病歴聴取、診察、検査・治療計画、診療録の記載）を通じて、泌尿器科領域の必要な知識と治療法を経験する。



- もくじ
- ③ 入院病歴要約の指導医からの添削を通じて、適切な用語の使い方や問題点の抽出を学ぶ。
 - ④ 患者や家族への病状説明やインフォームドコンセントに同席する。
 - ⑤ 患者を全人的に捉えて、医学的のみならず、心理的、社会的問題を配慮し、患者、家族に適切な指導を行う。
 - ⑥ 泌尿器・男性生殖器に関する研究を行い、機会があれば学会で成果を発表する。

4. 当直

土曜または日曜 1 回、平日 2 回の当直を義務づけています。

Ⅸ. 研修評価

研修目標の達成度については、診療科ローテーション終了時に研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて、自己評価および指導医・メディカルスタッフによる評価を行う。(EPOC2 使用)

また、研修医評価票は研修管理委員会に提出され、半年に 1 回、形成的評価（フィードバック）を行う。